

# 景觀用語事典

增補改訂版

篠原 修編

An aerial photograph of a mountain slope covered in dense, green forest. The terrain is rugged and uneven, with varying shades of green and brown. The perspective is from a high angle, looking down at the forest.

彰国社

## まえがき

景観という現象を工学的な観点から考え始めたのは、わが国では名神高速道路以降であろう。工学的な、という意味は、景観をある意図のもとに操作的に、また一定の理論的な裏付けをもって扱い、実用的な構造物や施設の設計・計画に活かすということである。具体的には安全で快適な走行を約束する線形設計や、対向車の遮光や視線誘導の効果を持ちつつ、道路にうるおいをもたらす機能植栽の導入であった。

もちろん、戦後になってにわかには景観、より伝統的な言葉でいえば風景が、クローズアップされたわけではない。風景は、万葉集や古今の昔から和歌に歌われ、俳句に詠まれ、また絵画に描かれてきた。つまり、わが国においては、西欧が風景に目覚めるはるか以前から、文学の、あるいは美術の主題の一つであり続けてきた。日本の自然と田園の風景はやさしく美しく、何よりも日本民族は風景好きであった。しかし、その風景に対する態度は、実際に対象を操作した作庭を除いて、鑑賞の域にとどまり、作庭においても感覚が重視されて、論理的であったとはいえない。

この風景の伝統は一大国土開発の時代であった安土・桃山、江戸時代初期にも受け継がれ、今日にもなおその華麗さを誇る城郭、城下町づくりに結実したのであった。

欧米の近代文明の衝撃を受け止めることから始まった明治維新以降の国づくりにおいても、先人たちは風景を忘れたわけではなかった。風景や景観という言葉こそ使われなかったにせよ、帝都復興の街路や隅田川の橋梁群は、都市の景観を意識して見事に設計され、全国の都市では都市美運動が興り、一方の自然地域では、その風景美を守るための国立公園制度が制定されたのである。

名神・東名の高速道路建設に代表される戦後の高度成長以来、わが国の国土は荒れ始めた。この風景の荒廃を何とか食い止めようと、工学的な景観研究は、そのフィールドを当初の道路から街路や橋へ、さらには港湾や河川、ダムへと広げた。また、近年ではこれらの施設単体を超えて街並みへ、都市へとその輪が広がりつつある。

したがって、景観を学び、公共空間のデザインを実践するためには、従来の細分化された学問体系を再融合させた総合的な思考が不可欠である。こと景観、風景に関する限り、風景にかかわりを持つ歴史、視覚の心理学から、構造、水理学を経て、文学、哲学に至る知識を一応は修得せねばならない。なぜなら景観、風景とは自然と、その上に展開される人間生活の営みの総体にはかならないからである。

わが国の風景の伝統を再生し、新たな景観づくりに参画しようとする人々に、この事典が多少なりとその手助けになることを願って、いささか大仰な言い方になるが、そういうつもりでこの事典を編んだ。

1998年9月

執筆者を代表して  
篠原 修

### 編者

篠原 修 (政策研究大学院大学)

### 著者 (50音順)

天野 光一 (日本大学)

一丸 義和 (国際石油開発)

伊藤 登 (プランニングネットワーク)

岡田 一天 (プランニングネットワーク)

北河大次郎 (文化庁)

小林 享 (前橋工科大学)

齋藤 潮 (東京工業大学)

佐々木 葉 (早稲田大学)

高尾 忠志 (九州大学)

畑山 義人 (ドーコン)

福井 恒明 (国土交通省国土技術政策総合研究所)

堀 繁 (東京大学)

松崎 喬 (プランニングネットワーク)

装丁：長谷川純雄

カバー写真 撮影：三沢博昭

カバー基本デザイン：篠原 修

## 増補改訂版によせて

1998（平成10）年11月に出版した『景観用語事典』は、幸いにも好評をもって迎えられ、今日に至るまでに増刷を重ねるロングセラーとなっている。まずは、座右の書として使っていただいていた読者諸氏に感謝を申し上げたい。

増補改訂を考えるに至った動機はきわめて単純である。2004（平成16）年に公布された「景観法」が2005（平成17）年に完全施行され、全国の市町村が景観行政団体となって地域性をベースとする景観行政が具体的に動き始めたからである。また、2005年は文化財保護法が改正され、文化的景観（cultural landscape）が選定・保護の対象となったことも大きい。この一連の動きにより、わが国の国土は自然・田園・都市のすべてにわたって、景観的な観点を抜きにその将来像を語ることはできなくなったのである。

今回の増補改訂では、以上の動きに対応して、「景観の法制度」「景観形成の体制と方法」「文化財と文化的景観」の章を新たにおこした。また項目では、「景観形成とデザインコントロール」を廃止、「アーバンデザインとまちづくり」を「アーバンデザインの歴史」と「都市再開発とアーバンデザイン」に再整理し、「駅と駅前広場」「伝統的街並みとまちづくり」「里山」も追加した。

この増補改訂版が旧版と同様、読者諸氏のお役に立つことを願ってやまない。

2007年1月

篠原 修

## 目次

まえがき \* 3 増補改訂版によせて \* 4

### 景観の概念ととらえ方

#### 【景観の概念】

景観 \* 10 景観の種類 \* 14 景観の学 \* 16 景観の価値 \* 20  
景観と美学 \* 22 景観とイメージ \* 24

#### 【景観の計画的とらえ方】

景観の類型 \* 28 景観把握モデル \* 30 視点と視点場 \* 32  
景観の変化 \* 36

### 景観の分析・予測・評価

#### 【景観の分析】

可視・不可視 \* 40 視知覚特性 \* 42 視距離 \* 44 仰角・俯角 \* 46  
見えの大きさ \* 48 見えの形 \* 50 色彩 \* 52 肌理・視線入射角 \* 54  
ゲシュタルト \* 56 錯視と奥行感 \* 58

#### 【景観の予測・評価手法】

景観の予測と評価 \* 60 景観の予測 \* 62 透視図 \* 64 模型 \* 66  
画像処理 \* 68 景観の評価 \* 70 評価手法 \* 72 分析手法 \* 74  
評価の構造 \* 78

#### 【景観の計画・設計手法】

景観の計画・設計 \* 80 景観設計の原則 \* 84  
景観計画・設計のプロセス \* 88 デザインの方法・要素 \* 92  
デザインボキャブラリー \* 94

### 景観の法制度と体制

#### 【景観の法制度】

景観法制度の歴史 \* 98 景観法 \* 102  
景観行政 \* 106 発注制度 \* 108 事業と景観評価 \* 110

## 【景観形成の体制と方法】

景観形成の体制づくり \* 112    コラボレーション \* 114  
景観づくりと市民参加 \* 116

## 文化財と文化的景観

### 【文化財と文化的景観】

文化財 \* 120    伝統的建造物群 \* 126  
文化的景観 \* 130    近代化遺産 \* 132

## 景観・各論

### 【自然景観・田園景観】

自然景観・田園景観 \* 138    山岳景観 \* 140    森林景観 \* 144  
国立公園の指定 \* 148    国立公園の計画 \* 150  
国立公園の保護・管理 \* 154    漁村景観 \* 158    農村景観 \* 162    里山 \* 166  
リゾートの景観 \* 168

### 【都市の景観】

都市景観 \* 170    日本の都市景観 \* 174    都市美 \* 178  
都市のイメージ \* 180    街並み \* 182    広場 \* 186    都市公園 \* 188  
盛り場 \* 192    アーバンデザインの歴史 \* 194    夜景 \* 198  
都市の顔 \* 200    駅と駅前広場 \* 202    伝統的街並みとまちづくり \* 204  
都市再開発とアーバンデザイン \* 206

### 【道の景観】

街路景観と道路景観 \* 208    街路の線形と横断面構成 \* 210  
街路のプロポーシヨン \* 212    街路の配置計画と景観 \* 214  
街路の格 \* 216    ストリートファニチュア \* 218    舗装と景観 \* 220  
山アテ \* 222    道路の線形と横断面構成 \* 224    道路構造と景観 \* 226  
道路の植栽 \* 228

### 【河川の景観】

河川の景観 \* 232    川の姿と個性 \* 234    河川景観のタイプ \* 236  
堤防・護岸・高水敷 \* 238    河川工作物 \* 242    水辺の緑 \* 244  
水辺の公園 \* 248    水辺の街並み \* 250

## 【港の景観】

港の景観の原型 \* 252    現代港湾機能と景観 \* 254  
都市景観との融合 \* 256    防波堤のデザイン \* 260    海岸の景観 \* 262  
人工海浜のデザイン \* 266

## 【構造物と景観】

構造デザイン \* 268    橋梁の構造形式と景観 \* 272    橋梁群 \* 276  
橋梁と建築, 橋梁と河川 \* 278    高架橋 \* 280    ペDESTリアンデッキ \* 282  
擁壁 \* 284    塔状構造物 \* 286    アースデザイン \* 288    ダム \* 290

## 意味論と伝統風景

### 【景観意味論】

景観と意味 \* 294    原風景 \* 296    理想郷 \* 298    風水思想 \* 300  
場所 \* 304    仮想行動 \* 306    奥の思想 \* 308    ハレとケ \* 310  
コンテクスチュアリズム \* 312

### 【伝統風景】

名所 \* 314    八景式 \* 316    日本三景 \* 318    白砂青松 \* 322  
山紫水明 \* 324    富士山 \* 326    参道 \* 328    日本庭園の様式 \* 330  
花鳥風月と雪月花 \* 332

あとがき \* 334

写真・図版出典リスト \* 336

景観工学を学ぶ人のために役立つ文献リスト \* 338

索引 \* 345

### 都市景観のとらえ方

景観は、自然景観、田園景観、都市景観というように、眺めの対象となる領域における人間生活の関与の度合いによっても分類・定義される。規模の大小を問わず、人間が都市的生活を営んでいる領域の景観を論じる際に、都市景観という概念が生まれる。都市景観は、人々が抱く都市の理想像、歴史的な蓄積、都市的活動の状態などが反映されているため、その評価には単なる構図的な眺めの美しさだけではとらえきれない面も多い（「都市美」「盛り場」の項参照）。

古今東西さまざまな都市は、地理的条件（内陸・山岳・臨海…）、時代（古代・中世・近代…）、成立過程（城下町・植民都市・ニュータウン…）、都市機能（首都・宗教都市・工業都市…）のような観点から分類可能であるが、これらの都市の景観的な特徴をとらえるためには、都市の全体的な形態や骨格と、街路や広場といった主要な場所の眺め（場の景）とに注目することが有効であろう。

### 都市形態

都市全体の形態、すなわち都市の領域の広がりや形は、近世以前の西洋都市や中国の都市のように城壁によって人工的にはっきりと規定されるもの、あるいは河川や海、急峻な山のような明確な地形によって規定されるもの、さらに日本の多くの都市のように境界があいまいなものがある。また20世紀の都市ではモー

タリゼーションの進展とともに都市的領域が無秩序に拡大する、いわゆるスプロールが見られる。都市全体の形と境界の景観的特徴は、その都市のイメージを大きく規定する。

### 有機的な街路パターン

都市の骨格は、主に街路のパターンによって把握することができ、そのパターンには、有機的なものと幾何学的なものがある。明確で幾何学的な秩序が見出せない有機的な街路パターンは、一般に自然発生的な都市や時間をかけて成長した都市に見られる。ヨーロッパの中世都市やイスラム都市のようにカーブや折れ曲がりの連続した街路からなる都市では、視点の移動に伴って刻々と景観の構図が変化し、広場に出ると突然視界が開ける、また広場に面して建つ宗教施設や公共建築がランドマークとなって都市の随所から見え隠れするといった多様な景観体験をもたらす。これら歴史的な都市の非整形な街路パターンはスプロールなどとは異なり、地形、風土への対応やコミュニティのルールに支えられており、次に述べる計画的で幾何学的な街路パターンの都市に欠けがちな人間的で生き生きとした魅力を有している。

### 幾何学的な街路パターン

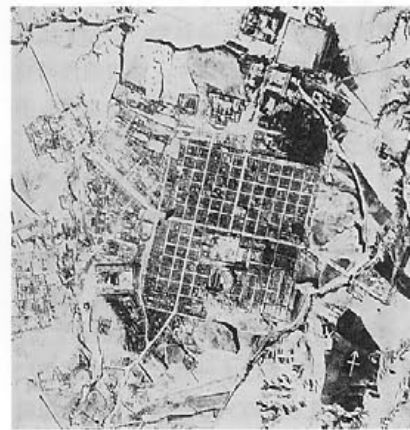
一方、明確な形態秩序概念に基づいて計画された都市があり、計画者、建設（改造）時期が特定される場合が多い。



有機的な街路パターンの都市（中世のフランス・パリ）<sup>\*)</sup>



高密度な中世都市の核となる広場（スペイン・カセレス）



古代ローマ帝国のグリッド都市（ティムガメド）<sup>\*)</sup>

わされる。人々の利用と周囲との関係を考慮して適切な配置が必要となる。

高密度な都市部に緑を配した空地を確保し、付近の人々の利用を目的とした小規模な公園として、スクエアやコモンがある。スクエアはそれに面した住居に付属する一種の庭であり、プライベートな性格が強いものと一般に開放されているものがあるが、街路パターンに組み込まれたワンブロックを公園とすることで、街路景観への効果も大きい。

#### ◆プロムナードと公園系統

散歩道として使われる線状の公園的空間には、モール、プロムナードがある。モールは直線的な並木道であり、イギリスの王室庭園を開放した公園の一部に始まる。プロムナードは特定の型はないが、快適な散歩道であると同時に、人々の社交の場としてフォーマルな性格を持っていた。

また、都市に点在する公園をネットワーク化するという公園緑地系統の思想から、公園街路が主にアメリカにおいて提唱された。公園をつなぎつつ、それ自体も公園的な機能を持つ幅員の広い街路である。こうした線状の公園的空間は、水辺に配置することで景観効果はより高まる。また沿道の土地利用、景観コントロールが併せて重要となる。

#### ◆ビオトープ

公園を人間にとって快適な空間ととらえるだけでなく、動植物の生息地として生態系が確保されたビオトープとして位

置付ける考え方もある。トンボ池や実のなる木など、都市部においてもこれまでと異なる観点からのデザインが生まれている。

#### 都市施設と公園

都市において公園は広場とともに人々が集まる場所であり、その利用、景観デザインの観点からも、公共施設との組合せが考えられる。アメリカの公園計画理論にならない、地域のコミュニティセンターとして小学校と公園を隣接させることが、関東大震災後の復興事業や名古屋の戦災復興都市計画で行われている。運動施設、美術館、劇場などの公共の文化施設と公園の一体デザインは例が増えているが、より一般的である街路と公園の一体デザインは必ずしも実現していない。管理者の違いという行政的な区分を越えた空間の連続的な利用とデザインがもっと考えられてよい。

#### 公園デザインのプロセス

現代の公園のデザインの対極的なプロセスとして、ランドスケープアーキテクトや建築家などがコンセプトに基づいた形態操作を行い、アートとしてデザインする場合と、住民などの利用者が参加して、いわば手づくり的に行う場合とがある。バーナード・チュミのデザインしたパリのラ・ヴィレット公園は前者の代表例であり、後者には、東京都世田谷区のねこじゃらし公園などがある。とくに近

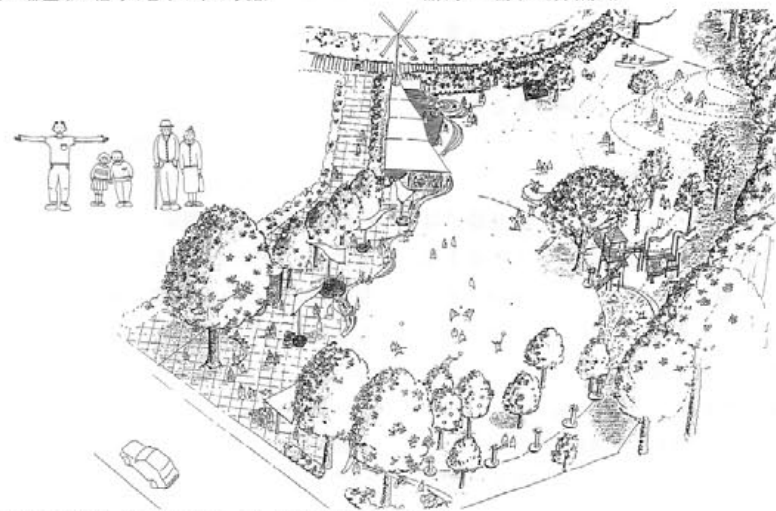
年は住民参加のまちづくりの具体的な対象として公園が取り上げられることが多く、ワークショップなどによるデザインの例が増えた。また公園のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化も参加型のプロセスで行われやすい。



ヒューマンスケールのプロムナード  
(岐阜・郡上市八幡町の谷中みずの小路)



ビオトープとしての水辺整備\*22  
(静岡・三島市の源兵衛川)



住民参加でデザインされたねこじゃらし公園 (東京・世田谷区)

### 港とまち

港町という言葉が意味するものは、船舶の係留場所と市街地とが近接一体化した状態である<sup>1)</sup>。

ところで、このような状態に寄与するのは、現代港湾では、背後に広大なヤードを必要としない船舶の停泊地周辺、すなわち、小型船舶溜まりや客船の係留施設などである。また、市街地側では、人々が集合する商業地域などが計画の中心となる（これらを一括してまちと呼んでおく）。以下では、とくに断りのない限り、港およびまちについて上述のような土地利用を前提とし、これら二つの領域の相互関係のあり方について述べる。

### 港とまちとの平面構成

港とまちとが一体化した状態にはいく

つかバリエーションがある。ここでは、4 類型を示しておく<sup>2)</sup>。すなわち弓状汀線型、水面圍繞型、突出型、水路貫入型である。

#### ◆弓状汀線型

弓状汀線沿岸型は、弓のりのやや単調な汀線を境界としながら、港とまちが並行する形式である。ヴェネツィア（イタリア）のスキアポーニ埠頭周辺などラグーンで広い静穏水域に面した場所、ヨーロッパの諸都市やバンコク（タイ）のように都市河川で港湾機能が発達している場所にもこの形式を見出すことができる。

ここで、この類型特有の景観を洗練させる技法に触れるなら、まず水面と並行する建築ファサードとプロムナードの整備が眼目となろう。汀線が長大な場合は、棧橋や展望テラス、際だったランドマー



弓状汀線型 スキアポーニ埠頭周辺（イタリア・ヴェネツィア）



水面圍繞型（イタリア・ポルトフィノ）

クなどが景観の単調さをやわらげるであろう。

#### ◆水面圍繞型

水面圍繞型は、外海から内陸側にやや引いたところに、適当な泊地（差渡し500m以下の水面<sup>1)</sup>を取り囲むようにまちが配置される形式である。

美保関港（鳥根）・マルセイユ旧港（フランス）などはこの形式の典型である。一般にこの形式は天然の入江に発達した港町に見られるが、平坦な沿岸地域の新規開発でも、マリナ・ベイ・デザンジュ（フランス）のように掘り込んだ水面の周囲に建築を建て回して、圍繞空間を生み出している例もある。

圍繞水面を巡るプロムナード、水面を狭んだ対岸の建築のファサードや周囲の山並みのスカイラインへの配慮が、この形式の景観を魅力的なものにする要点と

なる。

#### ◆突出型

突出型は、細長い地形に載ったまちが半島状に水面に張り出し、その周囲が港として機能している形式である。

その代表例として、ヴェネツィアのカナル・グランデと呼ばれる運河の入口にある旧税関周辺をあげることができる。また、この形式に類似する例としては、サンフランシスコのピア39のように棧橋に展開された商業施設群があげられよう。

突出の先端部は周囲から注目されやすいため、そこに位置する建築はランドマークとして観賞に耐える水準にあれば申し分ない。

また、この形式では敷地の2方向または3方向が水面に面するという事実を認識し得るような経験が保持されているこ